

第 72 回日本学校農業クラブ全国大会  
令和 3 年度兵庫大会

平板測量競技会

事前 Q & A

期 日 令和 3 年 10 月 27 日 (水)

会 場 高 砂 市 総 合 運 動 公 園

実施担当校 兵 庫 県 立 上 郡 高 等 学 校

〒678-1233 兵庫県赤穂郡上郡町大持 207-1

TEL 0791-52-0069 FAX 0791-52-0071

## 第 72 回日本学校農業クラブ全国大会 令和 3 年度兵庫大会 平板測量競技会事前Q & A

※ 表中左端の 1, 2, 3 の数字は関係する作業を表しています。

作業	No.	質 問	回 答	
	1	・大会前日に会場の下見はできますか。	・できません。来場は御遠慮ください。	
	2	・宿泊場所周りに適当な練習場所（公園・学校等）がありますか。	・今大会では練習会場はありません。	
1 2 3	3	・正選手と補欠とのメンバー変更は、いつ手続きをすればよいか。	・受付時に必ず、申し出てください。	
1 2 3	4	・申込後、選手が出場できない場合、代替りの選手の参加は可能か。	・申込後の選手の変更はできません。	
1 2	5	・第 1 次・2 次作業会場の大きさはどれくらいですか。	・会場の大きさは、およそ 140×70m です。	
1 2	6	・隣のコートとの距離はどのくらいですか。	・約 1 メートルです。	
1 2	7	・測点を示す杭はどのようなものできていますか。 また、杭の高さはどのくらいですか	<div style="text-align: center;">  </div> <p>・5 cm×5 cm×9cm の木製の杭です。測点の中心は、コノエネイルで示し、杭は競技場毎に色分けしてあります。また、杭を固定するために杭の角に穴を開けて、コノエネイルとは異なるアンカー（鉄の棒）で固定しています。また、杭の角が一カ所低くなっています。</p>	
1 2 3	8	・製図用紙、オフセット用紙、面積計算簿の種類・規格等は通知されますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>品名: <u>桜井(株)耐水紙レーザーピーチ 120<math>\mu</math>m</u>  品番: <u>LPWF120A3 (A 3 版), LPWF120A4 (A 4 版)</u>  用紙は白色で、下が透けません。</p> </div>	・用紙は、天候に関わらず以下のものです。 製図用紙・・・ <u>桜井(株)耐水紙レーザーピーチ LPWF120A3 (A3 版)</u> オフセット用紙・・・ <u>桜井(株)耐水紙レーザーピーチ LPWF120A4 (A4 版)</u> 面積計算簿…………… <u>上質紙 (A4 版)</u>	
1 2 3	9	・使用する図紙等の見本は送付されますか。	・送付しません。大会当日に掲示します。	
1 2 3	10	・審査員の持っている審査用紙を公開しますか。	・公開いたしません。	
1 2 3	11	・昨年度の入賞チームの図面や計算したものを公開しますか。	・公開いたしません。	
1 2 3	12	・競技後、図面等の返却はしますか。	・全国大会実施基準・B 実施細目 (g) に「いったん提出した測量成果は理由のいかんにかかわらず返却しない」と記載されています。	
1 2 3	13	・どの程度までの天気なら、晴天時競技を実施しますか。	・多少の雨でも晴天時競技を実施します。落雷のおそれのあるときや荒天時など、雨天時競技を実施する場合は、担当校が判断を行い、当日の朝までに担当校が判断し、宿泊先へ連絡します。	
	3	14	・雨の場合、三次作業の前に着替えることは可能ですか。	・着替えについては、競技終了後に所定の更衣室で行ってください。
1 2 3	15	・競技開始後大雨となり、2 回次以降の作業が困難になった場合どうなりますか。	・競技開始後の競技変更はしません。天候不順の時は各チームで、雨具・着替え等の準備をしてください。	
1 2	16	・晴天時の競技で実施中、落雷のおそれが発生した場合は中断となると思われますが、万が一中断があった場合の再開は、中断前の状態、競技のやり直しのどちらになりますか。	・原則、中断前の状態で行います。やむ負えない場合は、その測点で、中断前に近い状態からの作業再開となります。	
1 2	17	・競技途中に降雨があった場合、傘持ち等の補助はあるのですか。	・ありません。選手 3 名のみで対応してください。レインコート・傘類の雨具の使用は認めます。	
	3	18	・第 1 次作業で降雨となり図面を濡れたまま提出した場合、第 3 次作業の準備時間内において、図面を雑巾等で拭くことはできますか。また、雑巾を競技場内に持ち込んでもよろしいですか。	・できます。雑巾の持ち込みはよろしいです。使用する雑巾は必ず器具点検の際に点検をうけてください。
1	19	・雨天時、第 1 次作業の開始では、平板、野帳は裏返した状態ですか。また終了時はどうですか。	・晴天時第 3 次作業と同様で行います。（進行のアナウンスがあります。）	
1	20	・雨天時の第 1 次作業において、直角座標値はどのように提示されますか。またどのような様式で記載されているのですか。	・測点ナンバーと X Y 座標値を表形式で示したものを各チームに配布します。	
1	21	・雨天時の第 1 次作業において、境界線・対角線及び検線等の距離は、座標計算をしてもよろしいですか。	・してはいけません。	
1	22	・雨天時の第 1 次作業では、メモ用紙は配られますか。配られた場合にはそのメモ用紙を提出するのですか。	・メモ用紙は配布しません。なお、図紙、オフセット野帳など、配布した物は全て提出してください。	
1	23	・雨天時の第 1 次作業では、下図のように 3 人が机に横並びに座って 1 次作業を開始するのですか。それとも、例えば 2 人と 1 が向き合った状態で 1 次作業を開始するのですか。また、作業開始後はお互いに移動して作業してよろしいか。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>図 A</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>図 B</p>  </div> </div>	・図 A の状態で第 1 次作業を開始します。作業途中は、お互いに移動して作業してもかまいませんが、終了の合図は元の位置に戻ってください。	

1	2		24	・雨天時の競技で、測量針を使用することは可能ですか。	・全国大会実施基準のとおり、使用することはできません。
1			25	・27 cmのワイドアリダードを使用してよろしいですか。また、プリズム付アリダードを使用してもよろしいですか。	・ワイドアリダードは使用可能ですが、プリズム付アリダードや望遠鏡付アリダードは使用できません。実施基準では「普通アリダード」を使用器具として挙げています。普通アリダードとは、前視準板の中に視準糸があり、前視準板と後視準板と定規で構成されたものを指します。
1	2		26	・競技場に測距用ピンは刺さりますか。また、地面の凹凸の状況はどうですか。	・競技会場は土グラウンドですが、自立させることは難しいと考えられます。地面はほぼ水平、凹凸はほとんどありません。競技場の性質上、測量針の扱いに関しては、紛失しないよう十分注意してください。
1	2	3	27	・道具袋や道具箱等の使用は可能ですか。	・可能です。
1	2		28	・第1次、2次作業において（道具袋に準じて）カラビナを使用してもよろしいでしょうか。	・カラビナの使用は認めません。
1	2		29	・ケガ防止のためのテーピングや、絆創膏を貼ること、手袋をしたりして競技をすることは可能ですか。	・可能です。
1	2		30	・やけど防止の手袋が大きい場合、指先を切って調節してもよろしいですか。	・手袋は着用してもかまいませんが、身に付けるものについても、加工はしないでください。市販の物であれば指先がないものでもかまいません。
1	2		31	・膝あての装着は認められますか。減点対象になりませんか。	・減点にはなりません。また、装着は認めますが、作業の中につけるようにしてください。
1	2		32	・帽子の着用は可能ですか。	・可能です。着用するときは3人で統一してください。
1	2	3	33	・実習着の色が違っていてもよろしいですか（合同チーム等の場合）。	・よろしいです。
1	2	3	34	・タオル、ハンカチの使用はできますか。使用可能な場合、首に巻いたり腰にかけてもよろしいですか。	・よろしいですが清楚を旨としてください。
1	2	3	35	・ストップウォッチ付き腕時計の使用またはストップウォッチを競技中に使用してもよろしいですか。また、最初に「ピッ」という音がしますがよろしいですか。	・第1次、2次、3次作業でのストップウォッチや腕時計の使用は認めますが、競技時間についての異議は認めません。また、計時開始時の音以外のアラーム音を使用してはいけません。また、時計機能以外の機能を持つ情報端末（時計型情報端末やスマートフォンの類）の使用は認めません。
1			36	・平板移動器は半球面式や整準ネジ式等を使用してもよろしいですか。	・平板移動器の種類に規定はありません。
		3	37	・使用できる電卓の種類を教えてください。	・乾電池式、太陽電池式、10桁以上表示、メモリー機能付きの電卓はいずれも使用可能です。ただし、 <u>関数電卓・プログラム機能付の高機能電卓やAC電源を必要とするもの、その他情報端末等の使用は認めません。</u> <u>例年、違反品がありますので、実施基準をよく確認してください。</u>
1		3	38	・三角スケールは1組とありますが、副尺（オフセット尺）を準備する必要がありますか。	・必要ありません。
1	2	3	39	・字消し板の使用は可能ですか。	・使用できません。
1	2	3	40	・定規は大きさ長さを問わず、加工したものなどを使用してもよろしいですか。	・測量器具を加工したり、印等を付けたものは使用できません。
1	2	3	41	・Q&A40について、平板や三脚に購入時の日付や印がありますが、使用できますか。	・やむを得ないと判断します。故意による目印かどうか判断しにくいので、印字などが無いものがのぞましいです。
1			42	・下げ振りの塗装がはがれています。既定の重さを超えなければ同色に塗り直しても加工になりませんか。	・事前 Q&A 40 の通りです。塗り直しについては加工等となります。
1			43	・トランシット用の下げ振りを使用してもよろしいですか。	・平板用以外は使用できません。
1	2	3	44	・市販されている方眼目盛入りの定規類を使用してもよろしいですか。	・よろしいです。
1	2	3	45	・使用機械器具等の小刀は、切り出しナイフやカッターナイフ等の使用でもよろしいか。	・かまいません。
1	2	3	46	・目印となる位置でなければ、器具・用具に学校名のシールを貼ってもかまいませんか。	・作業時の目印かどうかの判断がむずかしいので、あらたにシールを貼らないでください。事務局が指定する平板用シールのみとします。
1	2	3	47	・使用器具が故障または破損した場合、その時点で失格となりますか。	・故障や破損をしても続行可能であれば失格にはなりません。そのまま実施してください。器具類は事前に確認をし、故障や破損の心配ないものを使用してください。
1	2	3	48	・使用器具が故障または破損した場合、代替りのものを貸してもらえますか。	・故障または破損した場合でも代替りの器具などの貸し出しはできません。
1	2	3	49	・使用器具が故障または破損した場合に備え、予備の器具を持ち込んでよろしいですか。	・競技には、器具点検を受けた器具のみ使用することができます。また、器具点検時においては、実施基準で指定された数量の器具のみを準備してください。

			50	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下のことについて、いつどの段階で出場選手に伝えるのですか。</li> <li>① 縮尺 ② 測点数 ③ 右回り、左回り</li> <li>④ 対角線、検線の位置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細は9月下旬までに兵庫大会ウェブページにアップする予定です。また、出場校には「平板測量競技会実施要項」を郵送します。</li> </ul>
1	2	3	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1次作業において、踏査から競技開始までの時間はどれくらいですか。また、第2次作業、第3次作業の準備時間はどれくらいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業の準備時間は3～5分程度です。すべてのチームが準備できたことを確認してから競技を開始しますので、競技進行上、準備は手際よく行ってください。</li> </ul>
1	2	3	52	<ul style="list-style-type: none"> <li>踏査及び作業中にメモをとり、その後の作業でメモを見てもよろしいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>踏査及び準備中に関してはメモをとってはいけません。作業中に図面やオフセット野帳にメモした場合は、終了合図前に必ず消して下さい。メモを消さずに残し、その後の作業でメモを見た場合、さらに減点の対象となります。</li> </ul>
1	2	3	53	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角スケールで線を引いてもよろしいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角スケールでの線引きはしてはいけません。</li> </ul>
1	2	3	54	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字、数字のきれいさが優劣を決める際に考慮されるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会実施基準通りに仕上げてください。</li> </ul>
1			55	<ul style="list-style-type: none"> <li>踏査の準備時間中で方位を確認すると減点になりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点となります。</li> </ul>
1			56	<ul style="list-style-type: none"> <li>平板の据え付け時に、平板の高さを低くして、膝をつきながら測定するのは減点の対象となりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な高さに据え付けるようにしてください。</li> </ul>
1			57	<ul style="list-style-type: none"> <li>三脚をまたぐ動作は減点の対象となりますか。また、測点をまたいだ場合はどうですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>またいでいるかどうかの判断は難しいので審査対象とはしませんが、観測中に三脚や測点を蹴ったりした場合は減点の対象となります。</li> </ul>
1			58	<ul style="list-style-type: none"> <li>据え付け作業を2名で行ってもよろしいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2名でも3名でもよろしいです。</li> </ul>
1			59	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1次作業における平板の評定において、補助者が三脚の脚を押さえることは減点の対象となりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点となりません。</li> </ul>
1			60	<ul style="list-style-type: none"> <li>観測手、助手、ポール手を競技中に意図的に配置替えることは可能ですか。また、競技中において観測手の眼鏡が破損し、視準できない場合などは配置替えることは可能ですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能です。</li> </ul>
1			61	<ul style="list-style-type: none"> <li>三脚固定の作業中に求心器と下げ振りを使用しますが、平板上にアリゲードや磁針箱などを置いたまま作業した場合は減点になるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点の対象にはしません。</li> </ul>
1			62	<ul style="list-style-type: none"> <li>標定の際に図面上の点と地上の測点が合わなかった場合、もう一度標定するときに平板上に器具を置いた状態で再度標定を行ってよいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同一の測点であれば、かまいません。</li> </ul>
1			63	<ul style="list-style-type: none"> <li>平板の据え付けにおいて、三脚の踏み込み等を行わない場合は減点の対象となりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点の対象となります。</li> </ul>
1			64	<ul style="list-style-type: none"> <li>平板の据え付けにおいて、三脚の踏み込みがついていない三脚は踏み込みができないので、手で三脚を押して固定したのでよろしいでしょうか。また、三脚は3本とも固定しないと減点の対象となりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手で三脚を押して固定してよろしいです。観測中、三脚が動かないよう固定しない場合は、減点の対象となります。三脚は3本とも固定してください。</li> </ul>
1			65	<ul style="list-style-type: none"> <li>三脚の脚を踏み込んだ際に下げ振りが測点に当たると減点になりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点の対象にはなりません。</li> </ul>
1			66	<ul style="list-style-type: none"> <li>求心や距離測定の際に腰を下ろしますが、その時に下げ振りの糸が地面につくと減点の対象となりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点の対象としませんが、下げ振りの糸についている金具が地面についた場合は減点の対象となります。</li> </ul>
1			67	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A66 の下げ振りの金具が地面にふれると減点とありますが、そのほか地面にふれると減点になるものがありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平板上の器具・筆記用具等が、落ちたと判断された場合は、減点の対象とします。</li> </ul>
1			68	<ul style="list-style-type: none"> <li>各測点の作業で求心器をいれる際に三脚や移心装置に接触し音が発生した場合は減点になりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点にはなりません。器具の取り扱いには注意してください。</li> </ul>
1			69	<ul style="list-style-type: none"> <li>磁針器は平板に固定しておかないといけませんか。また固定するならば、いつの時点まで固定しておけばよいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定の必要はありません。</li> </ul>
1			70	<ul style="list-style-type: none"> <li>方位は、いつどのように引けばよろしいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北を示す縦線だけは、最初に据え付けたNo.1 の測点上において磁針箱で引いてください。残りの線は、1次作業の時間内に定規で引いてください。</li> </ul> <div style="text-align: right;"> </div>
1			71	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A70 について、磁針箱の縁を用いて南北を示す縦線を引く作業は3人のうち誰が行ってもよいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よろしいです。</li> </ul>
1			72	<ul style="list-style-type: none"> <li>方位は北を上にして、図郭線の短辺と平行でなければなりませんか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面の右上に、北をほぼ上方にして書けば平行でなくてもかまいません。また、図面の置き方は指定されていませんので、短辺が上下になってもかまいません。</li> </ul>

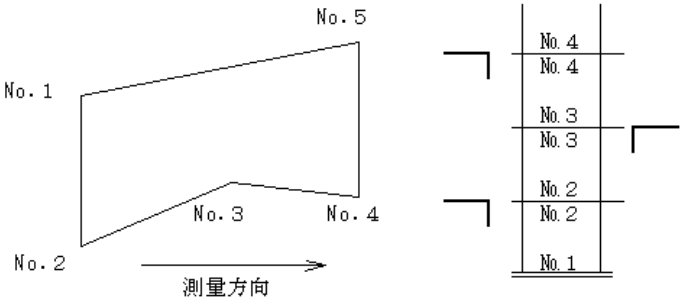
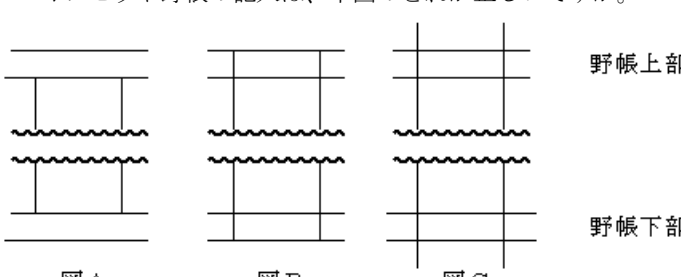
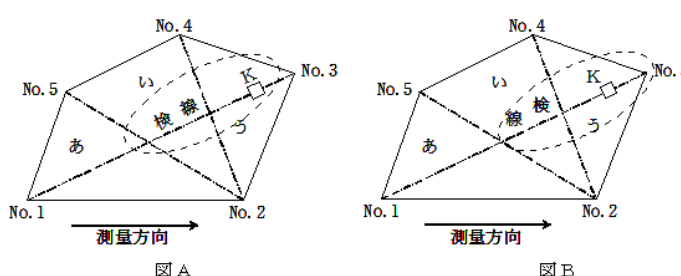
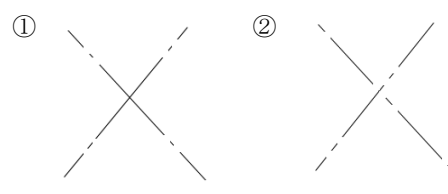
1		73	<p>・Q&amp;A72の回答では、北はほぼ上方でよいとなっていますが、ほぼ上方とは約何度(何目盛)ですか。縮尺とNはどのように書けばよいか。</p> 	<p>・何度(何目盛)の決まりはありませんが、全国大会実施基準のとおりがのぞましいです。記入は、どちらでもかまいません。</p>
1		74	<p>・競技中、三脚の脚を完全に伸ばしていないと減点の対象となりますか。</p>	<p>・減点の対象となりません。必要な高さで作業を行ってください。</p>
1		75	<p>・第1次作業において、巻尺の先送りは可能ですか。 例) No.1に平板を据え付けている時、No.1～No.2の測距後No.2～No.3の測点間に巻尺を伸ばして置いておく。</p>	<p>・巻尺を伸ばして先に置いてもよろしいですが、測距は平板が測点に移動してから行ってください。また、測距ができるのは視準する測線のみです。</p>
1		76	<p>・第1次作業での測距は、Q&amp;A75の回答より平板が移動してなっていますが、それは平板を完全に据えてからか、それとも据えつけている途中どちらでもよいか。</p>	<p>・いずれでもかまいません。</p>
1		77	<p>・第1次作業でポールや測距用ピンを次の測点に移動してよいか。(No.1に据えて、測線No.1～2を測量中に、ポールと測距ピンをNo.3に移動させておく。)</p>	<p>・Q&amp;A75のとおりです。</p>
1		78	<p>・No.2に移動後、すえつけ(整準・求心・定位)が完了する前にNo.2-3の測距を行ってよいか。</p>	<p>・移動後のすえつけ作業中であれば、かまいません。</p>
1		79	<p>・第1次作業において、30mを超える測線に中間点を設ける際は、アリダードを用いて視準しなければなりませんか。</p>	<p>・測点にポールを立て、中間点に測距用ピンまたはポールを立てる際は、必ずアリダードを用いて視準してください。</p>
1		80	<p>・第1次作業において距離を計る際、平板(三脚)を1～2m移動しても(三脚は閉じずに物は載っている状態で)よろしいですか。減点の対象となりますか。</p>	<p>・よろしいです。減点の対象にはなりません。ただし、物の落下等のないよう十分に留意してください。</p>
1		81	<p>・第1次作業の際、前視・後視以外の点を確認のため視準することは可能ですか。</p>	<p>・前視・後視以外の点の視準はできません。 また、前視・後視であってもアリダードを使って視準をやり直す際は、必ず測点にポールを立ててから視準を行ってください。ポールを使用しないアリダードでの視準は減点の対象となります。</p>
1		82	<p>・全国大会実施基準P. 19の(注5)において、「測量中に前後の測点以外は視準できないものとする。」とありますが、アリダードを使用しなければ「視準する」ということにはならないのでしょうか。</p>	<p>・アリダードを使用しなければ視準するということにはなりません。</p>
1		83	<p>・第1次作業において、NO.3以降の点において、NO.1にポールを立て、アリダードを使用しないで目視による誤差の確認をしてもよろしいでしょうか。</p>	<p>・よろしいです。</p>
1		84	<p>・第1次作業で線引きする際、三角定規、直定規のどちらを使ってもよろしいですか。</p>	<p>・よろしいです。</p>
1		85	<p>・アリダードで線を引いてもよろしいですか。</p>	<p>・よろしいです。</p>
1		86	<p>・図上での距離測定において、三角スケールの代わりにアリダードの定規を利用してもよいですか。</p>	<p>・図上の距離測定にアリダードの定規を利用しないようにしてください。三角スケールを使用してください。</p>
1		87	<p>・No.6で閉合誤差を生じたときに、誤差を特定しようと前・後以外の点をアリダードを使わずに目視で確認した場合、減点になりますか。</p>	<p>・減点の対象にはしません。</p>
1		88	<p>・事前 Q&amp;A87において、「目視で確認」する際に、測点にポールを置いてもよろしいでしょうか。</p>	<p>・よろしいです。</p>
1		89	<p>・アリダードで前後視の定位の後、三角スケール等で後視を目視で行うのは可能か。その際ポールを使用しないと減点になるのか。</p>	<p>・視準動作は、必ずアリダードとポールで行ってください。減点の対象とします。</p>
1		90	<p>・測点間を移動する時、三脚を閉じる必要がありますか。また、三脚頭部のネジは緩めなければなりませんか。</p>	<p>・三脚は閉じて移動してください。ネジは競技者の判断でよろしいです。</p>
1		91	<p>・測点間を移動する時、器具等を平板に載せたままにしてもよろしいですか。また、走って移動してもよろしいですか。</p>	<p>・平板には測量針以外の物を載せて移動してはいけません。また、平板を持って走って移動してはいけません。</p>
1		92	<p>・針先 0.2 mmの測量針が手に入りません。まち針を加工して、0.2mmに近づけたものを使用してもよろしいですか。</p>	<p>・やむを得ない状況なので、測量針に関しては、まち針の代用と加工を認めます。</p>
1		93	<p>・第1次作業中に測量針を持ち運ぶためと紛失防止のため、図のように測量針を消しゴムに刺していてもよろしいですか。また、それができない場合は、測量針を入れる小さなケースを平板上において作業をしても減点の対象となりませんか。その場合、器具点検でその小さなケースの点検を受ける必要がありますか。</p> 	<p>・測量針の紛失防止ということで使用を認めます。使用に関して減点の対象としません。なお、競技場に使用する器械器具等は、全て器具点検を受けてください。</p>

1		94	・平板に「測量針立て」を取り付けたり、求心器の先に下げ振りが外れないよう加工してもよろしいですか。	・測量器具の加工については、測量針以外は認めていません。減点の対象とします。
1		95	・紛失防止のため測量針の頭に自分たちで色を付けて使用していますが、加工とみなされ、減点となりますか。	・減点にはなりません。また、測量針に関してのみ、事前 Q&A92 のような加工も含め認めます。ただし、減点については事前 Q&A98 の通りとします。
1		96	・測量針が折れた場合、図板から抜くために小型のベンチ（ラジオペンチ）を使用してもよろしいですか。	・使用することはできません。全国大会実施基準・A競技基準(注5)に「上記以外の器械器具等の使用は認めない」と記載されています。
1		97	・測量針が折れ、図板から抜くことができない場合、どのように対処したらよいですか。	・競技や成果物等(図面)に支障がないように続行して下さい。
1		98	・作業中に測量針が折れた時や落としたりしたときは減点の対象となりますか。	・測量針の破損については減点の対象としません。しかし地面に落下した場合は減点の対象となります。また、破損した場合も競技後の検査時には破損したものを集めて全体を提示できるようにしてください。
1		99	・第1次作業時の移動において、下げ振りを首から掛けて移動してもよろしいですか。	・なるべくポケット等にしまって移動してください。
1		100	・第1次作業において、求心器に下げ振りをつるしたまま、手に持って移動してもよろしいですか。	・なるべくポケット等にしまって移動してください。
1		101	・器械手以外は走ってもよろしいですか。	・よろしいです。
1		102	・測点間を移動する時、器具は手に持って移動した方がよろしいですか。それとも、ポケット等に入れて移動した方がよろしいですか。	・どちらでもよろしいです。
1		103	・補助・ポール係が、磁針箱や求心器などを持ち、走って移動してよいか。	・事前 Q&A91、101、102 のとおりです。
1		104	・スタートの時は、平板上に器具を載せて、三脚を開いたまま移動してもよろしいですか。	・開始時のサークルからNo.1へ移動するスタート時のみ認めます。
1		105	・第1次作業において、ポールを持っている選手が移動する際、最短距離（対角線など）で移動してもよろしいですか。	・認めません。第1次作業においてはどの選手も選手はすべて境界線に沿って移動してください。
1		106	・第1次作業において、境界線に沿って移動する際、境界線からどの位まで離れてもよろしいですか。	・境界線の外側及び内側とも、おおむね2m前後を目安として作業してください。
1		107	・第1次作業終了時の出場校番号の記入は、次のどれでもよろしいですか。  出場校番号 1                      1                      出場校番号1	・どれでもよろしいです。
1		108	・第1次作業終了時点の出場校番号の記入は必要ですか。	・全国大会実施基準、事前 Q&A107 のとおりです。
1	3	109	・第1次作業終了時の測点番号の表示は、次のどれでもよろしいですか。  No. 1                      No, 1                      No, 1	・第1次作業ではどれでもよろしいです。ただし、オフセット野帳及び第3次作業仕上がり図面では「No. 1」としてください。
1	3	110	・第1次作業終了時の境界線の引き方は、どちらが正しいですか。   図A                      図B	・第1次作業終了時はどちらでもよろしいですが、第3次作業仕上がり図面では、図Bのように結線してください。
1		111	・Q&A110について、境界線が測点よりはみ出している場合は、減点の対象になりますか。また、はみ出しても良い場合は、どのくらいまで（例：測線の倍以上）が認められる範囲になりますか。	・第1次作業終了時では、減点の対象にはなりません。（方向線と測点位置が明示されている）
1		112	・第1次作業において、測点に○印をつけてもよろしいですか。	・第1次作業終了時に、記入事項以外の項目が記載されていれば減点の対象とします。
1		113	・第1次作業の終了の合図の際、平板上に器具を載せたままでもよろしいですか。	・よろしいです。
1		114	・第1次作業の終了の合図は、どのようにすればよろしいですか。	・巻尺を巻き、使用した器具を持って競技者全員が最終測点に集合し、挙手と声で終了の合図を審査員にしてください。
1		115	・第1次作業終了（点検）時に測点上に針は立てたままでもよろしいですか。立てておく場合、最終測点とNo.1の2本なのか、それとも他の点にも立てておいてよいか。	・測量針をどこに立てていてもかまいません。また、事前に申告した針のうち、立てておくのは何本でもかまいません。
1		116	・第1次作業終了の合図後、平板を動かしてしまった場合どうなりますか。	・平板を動かした場合は、減点をした上で再度選手に据え付けてもらいます。ただし作業時間には含まれません。
1		117	・第1次作業終了後、図面は平板に貼り付けたまま審査員に提出するのですか。	・図面は貼り付けたまま提出してください。
1		118	・第1次作業が終了したとき、作業時間25分までに対角線の確認や第2次作業に向けての相談をすると減点になりますか。	・減点の対象にはなりません。


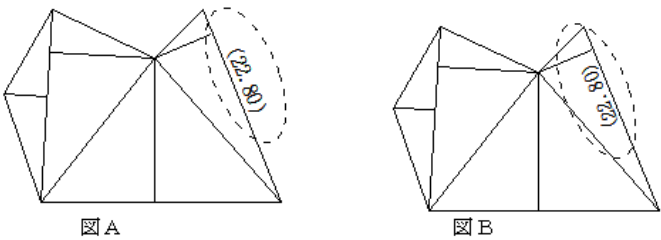
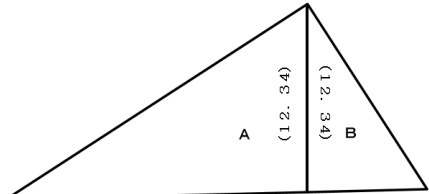
1	2	119	・第1次作業及び第2次作業において、選手間の連携のためのかけ声はや合図及びジェスチャーであれば、どんなものでも減点の対象とはなりませんか。	・他のチームの競技を妨げたり影響がでないようにしてください。
1	2	120	・ポールや巻尺等の器具を各測点付近に置いて移動してもよろしいですか。	・よろしいです。ただし、作業終了時に使用した器具を置き忘れた場合は減点の対象となります。
1	2	121	・測量区域内を横断すると減点になるのか。	・Q&A106(第1次作業), Q&A151(第2次作業)のとおりです。
1	2	122	・各作業開始前に図紙及び野帳を貼っておいてもよろしいですか。	・各作業開始前の準備時間に貼ってください。
1	2	123	・3倍速、4倍速、5倍速巻き取り巻尺の使用は可能ですか。	・可能です。
1	2	124	・測距を杭の頂部でなく、地面で行ってもよろしいですか。	・杭頂部で、中心を示すネイルで測距を行ってください。
1	2	125	・巻尺をまたぐと減点の対象となりますか。	・またいどうかの判断は難しいので、審査対象とはしませんが、観測中に巻尺を踏んだり蹴ったりした場合は減点の対象とします。
1	2	126	・第1次作業、第2次作業の測距の際に、巻尺の0点は先でも後でもよろしいですか。	・第1次作業では0点を先にしてください。2次作業ではどちらでもよろしいです。
1	2	127	・第1次作業、第2次作業で測点ごとに巻尺を巻き取らず、地面を引きずらないように2人で巻尺を引張って、次の測線に移動してもよろしいですか。	・巻尺は、測定ごとに必ず前手と後手の距離が5m程度になるまで巻き取るかたぐるかをし、さらに引きずらないように移動してください。30mを超える測定の場合も同様です。
1	2	128	・巻尺で距離を測る際に手などが測点に触れた場合は減点になりますか。	・減点の対象にはなりません。ただし、測点が動くような作業は、減点の対象とします。
1	2	129	・第1次作業、第2次作業で巻尺を巻き取る(たぐる)際、地面に巻尺が接した状態で、引きずらない様に5m以下まで巻き取る様にしても減点にはなりませんか。	・引きずらないように、巻き取れば減点の対象にはなりません。
1	2	130	・Q&A129について、巻尺を地面に接したままで引きずらないように巻き取れば減点となりますか。	・減点の対象にはしません。
1	2	131	・第1次作業、第2次作業において、風等により巻尺が他の競技場に入ってしまった場合、減点の対象となりますか。	・減点の対象となります。
1	2	132	・測量作業中に風が強く巻尺が安定しないまま数値を読んだ場合は減点になりますか。	・減点の対象にはなりません。
1	2	133	・第1次作業、第2次作業の測距において、30mを超えていなくても中間点を設けて測距を行ってもよろしいですか。	・よろしいです。
1	2	134	・30mを超える測距をする場合、中間点は必ず30m地点になるようにしなければなりませんか。	・必ずしも30m地点でなくてもよろしいです。
1	2	135	・巻尺が30mと少し計測が可能であるが、30mを超えたら、必ず1測長以上と考えて、測量ピン等を使用して計測しないといけませんか。	・必ず1測長以上と考えて測量ピン等を使用して観測を行ってください。
1	2	136	・中間点を設ける場合、測距ピンを地面に立てずに、置いた状態でも減点にはなりませんか。	・減点の対象としません。ただし測距の際は、必ずピンは立てて測定してください。
1	2	137	・30m以上の測定をする場合、中間点にいる者が、ピンポール1本で方向を定め、巻尺を合わせたあと、きりの良い所にピンポールを移動してもよろしいですか。	・よろしいですが一度設置した測距用ピンをきりの良い目盛へ移動した場合、必ず見直し作業を行ってください。
1	2	138	・杭の中心どうしを結んで巻尺で測定する時に、(杭の高さが約9cmなので)たるんでしまって、1度でも地面にふれたら減点の対象となりますか。	・地面に触れた場合でも引きずりがなければ減点の対象にはなりません。引きずりについては、程度によって減点の対象となります。
1	2	139	・2.5m以上(3.0m未満)の距離測定では、巻尺がどうしてもしっかりと張れず少したわみます。減点の対象になるのでしょうか。	・たわみは、減点の対象にはなりません。
1	2	140	・収縮自在ポールを完全に伸ばさず、2m以下の状態で使用してもよろしいですか。	・ポールは完全に伸ばした2mの状態で使用してください。
1	2	141	・ポールは、器具点検の時から第2次作業の終わりまで、1本のみを持ち込んで作業してもよろしいですか。	・全国大会実施基準のとおり、器具点検時には2本用意しなければなりません。作業に使用するのは1本でもよろしいです。
1	2	142	・ポール2本のうち、使用しない1本をサークル内に置いたままにしておき、使用したポール1本のみを持って最終測点で作業終了の合図をしてもよろしいですか。	・よろしいです。作業で使用した器具のみを持って終了の合図をしてください。
2		143	・オフセット野帳の「縦の線」の長さは、大会前に教えていただけませんか。	・大会前には示しませんが、大会当日、使用する測点、オフセット野帳、面積計算簿を展示します。
2		144	・オフセット野帳への記入は、地面上で作業してもよろしいですか。	・よろしいです。
2		145	・野帳が土や雨により汚れてしまった場合は減点されますか。	・減点されません。
2		146	・第2次作業時の図面をフリーハンドで書いた時に境界線と対角線等が交わっていないと減点になりますか。	・フリーハンドでもかまいませんが、なるべく実施基準通りに仕上げてください。
2		147	・見取図板(野帳用下敷)を首から下げて吊るせるように、紐を付ける加工はしてもよいですか。	・よろしいです。

2	148	・第2次作業において、野帳手はコートはどこにいてもよろしいですか。	・サークルの外で各自のコート内であれば、どこにいてもよろしいです。
2	149	・第2次作業において、2mポールは必ず使用しなければなりませんか。	・30mを超える見通しに最低1本は、使用してください。
2	150	・30mを超える測距において、30mを超える全ての箇所中間となる測距用ピンを刺してから観測を始めてもよろしいですか。	・よろしいです。
2	151	・第2次作業で測距を行う場合、境界線に沿わず最短距離で走ってもよろしいですか。	・よろしいです。
2	152	・境界線、対角線、検線はどのような順序で測定すればよろしいですか。	・境界線、対角線、検線の順に測定し、境界線はNo.1-No.2から測定してください。対角線の順序は問いません。
2	153	・Q&A152について、境界線→対角線→検線の順ですべて記入した後に、疑義が生じて境界線を測り直した場合は、減点になりますか。減点になる場合、測り直したい場合、どのように対応すべきですか。	・減点の対象とします。 測り直しの対応は、チームの判断とします。
2	154	・Q&A153について、対角線を測定する前に境界線を測り直した場合。または、検線を測定する前に対角線を測り直した場合はどうでしょうか。	・対角線を測定する前の境界線の測り直し、検線を測定する前の対角線の測り直しは減点とはなりません。Q&A153の場合は減点とします。
2	155	・第2次作業において対角線測距における移動の際、巻尺を5m程度まで巻き取って、そのまま巻尺を伸ばしながら次の対角線へ移動してもよろしいですか。	・5m程度まで巻き取った後は、巻尺を伸ばしながら対角線まで移動するのではなく、対角線測距の際には対角線上まで移動してから巻尺を伸ばしはじめてください。
2	156	・第2次作業の対角線の測距について、前手と後手が測線の中央付近から巻尺をのばしながら測点に移動しても減点にはなりませんか。	・事前 Q&A127 のようにのばす動作がのぞましいです。
2	157	・30mを超える検線を測定するときは、見通しを行う杭はK点または測点のどちらで行うのですか。	・K点、測点のどちらでもよろしいです。
2	158	・第2次作業の測距で、中間点を視準する際、視準する側の測点に置かれるのは、測距用ピンが正しいか、ポールが正しいか。 	・いずれでもかまいません。
2	159	・第2次作業における30mを超える測距において、ポールを使用しないで測距用ピンだけの目視で中間点を設置してもよろしいですか。	・遠い測点には必ずポールを立て、中間点にはポールか測距用ピンを立てて見通してください。測距用ピンだけの目視はいけません。
2	160	・Q&A158について、視準する側の測点に置かれるのは、測距用ピン、ポールいずれでも構わないとございますが、測距用ピン、ポールいずれも使用せず、頭を低くして測点のコノエネイルを直接視準する場合は減点対象となりますか。	・事前 Q&A 159 の通りです。
2	161	・オフセット野帳は、全国大会実施基準のとおり印刷されていますか。	・印字の大きさは違いますが、様式は全国大会実施基準のとおり印刷してあります。
2	162	・オフセット野帳の「縦の線」の長さは、大会前に教えていただけるでしょうか。	・大会前には示しませんが、大会当日、使用する測点、オフセット野帳、面積計算簿を展示します。
2	163	・オフセット野帳への記入は、地面上で作業してもよろしいですか。	・よろしいです。
2	164	・第2次作業時の図面をフリーハンドで書いた時に境界線と対角線等が交わっていないと減点になりますか。	・フリーハンドでもかまいませんが、なるべく実施基準通りに仕上げてください。
2	165	・オフセット野帳を記入する時は、定規を使わなければなりませんか。フリーハンドでもよろしいですか。略図はどうですか。	・全てフリーハンドでもよろしいです。
2	166	・オフセット野帳の「測量方向」の書き方は、No.1-No.2に平行になるように書くのですか。それとも用紙の下辺に平行になるように書くのですか。	・用紙の下辺にはほぼ平行になるように書いて下さい。
2	167	・オフセット野帳の略図は、北を上にして書くのですか。それとも、方位に関係なくNo.1-No.2が用紙の下辺に平行になるように書くのですか。	・略図ですので、形がわかればどの向きでもよろしいです。
2	168	・オフセット野帳において、No.1-No.2の境界線を野帳の一番下に書かなくてはなりませんか。また、対角線の順はどうですか。	・野帳は境界線、対角線、検線の順で下から書いてください。境界線はNo.1-No.2から書き、対角線の順序は実施基準通りに仕上げてください。
2	169	・オフセット野帳で横の線が縦の線よりはみ出していなくても減点の対象となりますか。	・減点の対象となります。
2	170	・全国大会実施基準のP22のオフセット野帳で対角線No.2-4のNo.4の大きい方から記入しても減点となりますか。	・全国大会実施基準のとおりです。減点の対象とします。



2	171	<p>・オフセット野帳について、「」の記号は ◊ でも減点にはなりませんか。</p>	<p>・全国大会実施基準とおりです。</p>															
2	172	<p>・一点鎖線の点は——●——でなければならないか。少し短い線でもよいか。 —— ————</p>	<p>・いずれでもかまいません。</p>															
2	173	<p>・次のような多角路線の場合、オフセット野帳の測量方向を示す記号はこれでよろしいですか。</p> 	<p>・よろしいです。また、「」印は区分線の延長線上に記入してください。</p>															
2	174	<p>・オフセット野帳の表を作成する際、どちらの書き方でもよろしいですか。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>図 A</td> <td></td> <td>図 B</td> </tr> <tr> <td>No. 4 32.88</td> <td>〃</td> <td>No. 4 32.88</td> </tr> <tr> <td>No. 3 17.25</td> <td>〃</td> <td>No. 3 17.25</td> </tr> <tr> <td>No. 2 15.87</td> <td>境界線</td> <td>No. 2 15.87</td> </tr> <tr> <td>No. 1</td> <td></td> <td>No. 1</td> </tr> </table>	図 A		図 B	No. 4 32.88	〃	No. 4 32.88	No. 3 17.25	〃	No. 3 17.25	No. 2 15.87	境界線	No. 2 15.87	No. 1		No. 1	<p>・図A、Bどちらの書き方でもよろしいです。</p>
図 A		図 B																
No. 4 32.88	〃	No. 4 32.88																
No. 3 17.25	〃	No. 3 17.25																
No. 2 15.87	境界線	No. 2 15.87																
No. 1		No. 1																
2	175	<p>・オフセット野帳の記入は、下図のどれが正しいですか。</p> 	<p>・野帳上部は図ABCのいずれでもよろしいですが、野帳下部は図A Bのいずれかとしてください。</p>															
2	176	<p>・Kと検線の書き方はどのような書き方が正しいですか。</p> 	<p>・文字と線が交差していなければ、全国大会実施基準の例や図A、Bのいずれの書き方でもかまいません。</p>															
2	177	<p>・オフセット野帳の見取り図で一点鎖線が交わる時の書き方は、①がよいと思うが②で減点となるか。</p> 	<p>・なるべく全国大会実施基準通りに仕上げてください。</p>															
2	178	<p>・第2次作業の終了の合図は、どのようにすればよろしいですか。</p>	<p>・巻尺を巻き、ポール、ピンポールを持って出発地点のサークル内に競技者全員が集合してから、挙手と声で終了の合図を審査員にしてください。</p>															
2	3	179	<p>・「測量年月日」の区切りの記入の仕方は、どちらが正しいですか。</p> <p>A 3. 10. 27      B 3、10、27</p>	<p>・Aが正しいです。</p>														
2	3	180	<p>・測量年月日の年は、和暦または西暦のどちらを記入すべきですか。</p>	<p>・和暦を使用し、3. 10. 27と記入してください。</p>														

2	3	181	・測量年月日は、「3. 10. 27」でよいですか。	・よろしいです。
2	3	182	・求積区を示す記号「あ・い・う・・・」の指定はされますか。また、第2次作業と第3次作業では同じ区分にしなければなりませんか。	・求積区「あ・い・う・・・」の場所は指定しませんが、チーム内で統一させてください。
	3	183	・面積計算簿に「あ、い、う、え」は記載されているか。	・記載されておりません。
	3	184	・三斜法と三辺法の面積計算簿の「計」の欄において、記入不要なところに斜線は印刷してありますか。	・印刷してあります。
	3	185	・第3次作業(三斜・三辺)の机の大きさはどれくらいですか。	・長机を使用します。(幅 1800×奥 450mm)
	3	186	・三斜法において、下図のように2人が向き合った状態で第3次作業を開始するのですか。それとも、机に横並びに座って開始するのですか。 	・図Aの状態第3次作業を開始します。作業途中は、お互いに移動して作業してもかまいません。終了時はもとの位置に戻った状態で、合図をしてください。
	3	187	・三斜法において、選手の移動は可能ですか。	・作業中は移動してもかまいません。ただし、他の選手の邪魔にならないようにしてください。終了の合図は元の位置に戻ってしてください。
	3	188	・三斜作業時に、測定値を読むときに、声を出していてもよいですか。	・声はかまいませんが、声の大きさは、他のチームの妨げにならないようにお願いします。
	3	189	・第3次作業開始時に図面を貼っている平板やオフセット野帳・計算簿などは裏返した状態で開始するのですか。	・全て裏返した状態で開始します。また、終了合図は、全て裏返した状態で合図をしてください。
	3	190	・第3次作業において、図面を平板からはずして作業してもよろしいですか。また、はずす時間は、作業時間外に確保されていますか。	・よろしいです。図面をはずす場合は、準備時間中に行うことができます。準備ができたら図面を裏返してください。
	3	191	・第3次作業で図面を仕上げる際に、測量針を使用してもよろしいですか。	・第3次作業で測量針は使用できません。
	3	192	・第3次作業において、オフセット野帳を見ながら面積計算をする際に、オフセット野帳に転記しやすいように(a, b, c)を各辺に書いてもよろしいですか。 	・第3次作業時のオフセット野帳の書き換え、書き足しは減点の対象となります。
	3	193	・第3次作業の落とし物も減点になりますか。	・減点の対象とします。
1	3	194	・閉合誤差が 10 cm未満の場合は、終点と始点を結線してもよろしいですか。	・第1次作業終了時に結線させた場合は減点の対象となります。第3次作業においては、必要により図解法を用いるか、終点と始点をそのまま結線して作業をしてもよろしいです。
	3	195	・閉合誤差の補正を図解法で行った場合、補正前の線は消すのですか。	・消してください。
	3	196	・第3次作業でスケールアップを行うとき、10 cm単位ではなく、5 cm単位や1 cm単位まで目測により読んでよろしいですか。	・よろしいです。
	3	197	・三斜法の場合、境界線を底辺として面積計算してもよろしいですか。	・よろしいです。
	3	198	・第3次作業三斜法の面積計算において、底辺は最長辺としなければいけませんか。	・競技者の判断とします。
	3	199	・面積計算簿において、千の位にカンマ「,」を入れなければなりませんか。	・必ずカンマを書き入れてください。
	3	200	・三斜法で、高さを記入するスペースがほとんどない場合、どのように書けばよろしいですか。 	・図Bのようにしてください。

3	201	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A200で図Bの(3.14)は、高さの線の傾きから距離の数字を右側ではなく左側に記入となるのではないですか。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>引出線の記入方法は、左側か右側は問いません。(水平の補助線上に距離を記入する。)</li> </ul>
3	202	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕上がり図面で、寸法が記入できない場合、引出線は矢印(←)でなければならないか。(●—)でもよいか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A200のとおりです。</li> </ul>
3	203	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面仕上げにおいて、数値の書き方はどちらが正しいですか。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>図Aが正しいです。数字は上向きに、線の上を書くことを原則とします。</li> </ul>
3	204	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面仕上げにおいて、三角形の底辺または高さが垂直になった場合の数字の書き方を教えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>線が垂直な場合、数字は図面右からみて上向きに、線の上を書くのを原則とします。</li> </ul>
3	205	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前 Q&amp;A204 について、A のようでよろしいでしょうか。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aの通りでよろしいです。</li> </ul>
3	206	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面の仕上げで、境界線と対角線、対角線と図郭線等の線の太さや濃さを変える必要はありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要ありません。</li> </ul>
3	207	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成図面の図形が極端に端の方にあり、図郭線の余白が他の箇所比べて狭くなる場合は減点対象となりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>減点の対象となりませんが、図面の配置を考えて、描くのが望ましいです。</li> </ul>
3	208	<ul style="list-style-type: none"> <li>図郭線やタイトルブックは、指定の大きさがありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に指定はありません。図面のバランスを考えて描いてください。</li> </ul>
3	209	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次作業において、仕上がり図面の表題欄の大きさに決まりはあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に決まりはありません。</li> </ul>
3	210	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積計算において計算ミスをして、その後の計算へ影響した場合、どのように採点されますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算ミスの箇所についてのみ減点とします。減点後の関連した計算は減点しません。ただし、さらに計算違いをした場合は減点の対象となります。</li> </ul>
3	211	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続計算をした場合、減点対象になりますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算簿に示されている、小数点以下第2位に四捨五入された数値を使って審査を行います。影響していた場合は減点の対象となります。</li> </ul>
3	212	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積較差が選手の計算ミスにより制限を超えたが、審査員が正しく計算し直した値が制限内であったとき、どちらの値により審査が行われますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算ミス等で制限を超えた場合は、選手の計算した値(面積計算簿に記載されている値)で審査を行います。計算ミスをして制限内に入った場合は、審査員が正しく計算し直した値で審査が行われます。計算ミスの箇所は減点の対象となります。</li> </ul>
3	213	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面を平板からはずして作図した場合、作図終了後に再び平板に貼る必要がありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再び平板に貼る必要はありません。</li> </ul>
3	214	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次作業の終了の合図は、どのようにすればよろしいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記用具を置いて面積計算簿及び図面を裏返し、無言の挙手で行ってください。その際、しっかりと手を挙げて合図をしてください。なお、この動作を行うまでを競技時間とします。</li> </ul>